



川に見る・日本の四季⑪ 秋田の川の「秋」を追う

# 鏡の川面を彩る、秋の色の饗宴。

秋田市から秋田平野を潤す雄物川に沿い、その上流を目指す。大仙市で雄物川と別れて支流の玉川に沿って北上する。武家屋敷と枝垂れ桜で有名な角館町があり、水深日本一(423.4m)の田沢湖がある。田沢湖といえば、この湖の固有種で、絶滅したとされるクニマス(国鱒)が富士五湖の西湖で発見されて話題を呼んだのを思い出す。

田沢湖畔を走り、八幡平を目指して角館街道(秋田街道)を北上する。田沢湖も秋の色を映していたが、走るにつれて周辺の紅葉が色濃く、鮮やかになっていく。

写真は、雄物川水系で最初に建設された多目的ダムである鏡燧ダム(秋扇湖)と、同水系の最大のダムである玉川ダム(宝仙湖)のほぼ中間地点で撮った。何よりも、こぼれんばかりの色彩の饗宴となった川沿いの紅葉がみごとだ。玉川の上流はさざなみひとつなく、まるで鏡のようだ。空気はこれ以上なく澄明で、鏡となった川面に秋たけなわの紅葉を映し出している。思わず車を止めてシャッターを押し続けた。

この後、大館市まで足を伸ばし、岩瀬川に入った。



(上) 秋田の市街地を抜けて田園地帯に入る。一帯は黄金色に染まり、豊かな実りの秋を迎えていた。河口にほど近い雄物川は川幅がゆったりと広がり、大きく蛇行しながら流れ、川岸のススキが秋の陽を浴びてキラキラ光っていた。

(下) 大館市で米代川の支流、岩瀬川に入る。白神山地の東端、田代岳に源を発している。春にも訪れたが、秋景色も気になって再訪となった。澄みきった清流は相変わらずで、色づき始めた木々の間を飛沫を上げて下っていた。自然は、春には春の、秋には秋の貌を見せてくれる。冬の岩瀬川が気になってきた。

